



# 川崎市立高津高校

▶設立：1928年 ▶種別：全日制・定時制／普通科／共学 ▶生徒数：1学年約280人  
 ▶川崎市北部唯一の市立高等学校。「学ぶ力」「自律する力」「実践する力」の3つの力を養成。2019年度入学生より1人1台のタブレットPCを導入。▶卒業生の進路状況 大学・短大…65%、専門学校…25%、就職・その他…10%

## 「身の丈に合った大学」を選ぶ生徒が増加

本校ではここ数年、年内入試を希望する生徒が増え、2020年度入試では大学進学者の約7割が年内入試で進学しました。評定平均4.3以上の生徒の変化が顕著です。ここ2年で、指定校推薦での進学が急増しました(2018年度44%→2019年度57%→2020年度72%)。

この背景には中堅私大の難化があります。合格率が半減し、部活引退後にがんばって勉強すれば合格できるモデルが崩れたのです。生徒の意識も変わりました。難度の高い大学よりも、「入りやすい、身の丈に合った大学」に重きを置きます。さらに保護者も安全志向で指定校を望みます。

しかし、このような安易な大学選びはミスマッチにつながりかねません。よって本校では指定校推薦希望者には明確な志望理由を求め、面接指導は4回以上、合格後は検定受験など、高いハードルを設けています。

## 「求める学生像」が透けて見える入試を期待

「入れるのならどこでもいい」志向の生徒が増える中、進路指導の一番の課題は、「自分の将来に向き合わせる」こと。その手段として志望理由書の作成と面接指導に力を入れています。まず、高2・12月に全生徒に志望理由書対策講座を受けてもらいます。「将来つきたい職業は?」「そう思ったきっかけは?」「入学後何を学びたい?」「魅力に感じた志望校の特色は?」など、小さな質問に答え、それらを最後に合体させて志望理由書をつくるというものです。この作

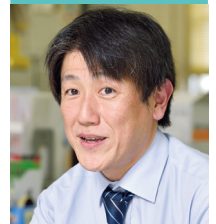
業を通して生徒は、何が自分の課題なのかに気づき、調べたり考えたりしていきます。年内入試受験者には高3の5、6月に再び志望理由書を書かせ、志望理由を確認します。また、高2・2月には卒業生に、学問分野別に大学でのリアルな学びについて話してもらう会を設けています。生徒にとつて卒業生の話は宝の山。具体的、かつ説得力があるので、ミスマッチを防ぐことにもつながっています。

面接指導は、高3・7月～11月にかけて1人あたり5、6回しています。ここでも短い質問を重ねることで、生徒は徐々に自分の考えが明確になり、回答の質もぐんと上がります。このように一連の年内入試対策を続けるうちに、生徒は自分の将来について向き合うようになり、考えが深まっていくのです。年内入試対策はキャリア教育とも言えます。

私が思ういい年内入試とは、その大学への適性を見極めるような、ある程度歯ごたえのある入試です。例えば**産業能率大学**のキャリア教育接続方式。インタビューやグループワークなどを行う3日間のプログラム受講が必須です。これをやり逃げられなければ、この大学の教育は合わないことがわかります。あるいは**日本女子大学**の自己推薦入試。ある生徒は課題論文の「平賀源内の浄瑠璃」がきっかけで、評論についての自分の適性に目覚めました。このような、求める学生像が透けて見える入試は、受験生、大学双方にプラスになるはず。本校ではこれからキャリア教育に本格的に取り組めます。大学の先生や院生の皆さんも参画してみませんか。生徒の成長、変容と一緒に見守ることは、長い目で見て大学にもメリットがあると思います。

年  
内  
入  
試  
対  
策  
そ  
の  
も  
の  
が  
自  
分  
の  
将  
来  
に  
向  
き  
合  
う  
機  
会  
に

目  
利  
き  
に  
聞  
く!



進路指導部主任  
いし かわ つよし  
**石川 毅**

### 年内入試の 進学実績(2019年)

国公立大／信州大学 私立大／神奈川大学、専修大学、日本大学、駒澤大学、帝京大学、関東学院大学、東海大学、國學院大學、東京工科大学、明星大学、麻布大学、日本体育大学、鎌倉女子大学など

	高2	高3
年内入試 指導スケジュール (受験校の決定 ～受験対策)	12月 ・志望理由書対策講座 (全生徒対象) ・志望理由書の作成	2月 ・卒業生に聞く会「開催 (大学に進学した 卒業生12人による、 学問説明会)
		4月 ・進路希望調査
		5月 ・年内入試希望者説明会 (第1回)
		7月 ・年内入試希望者説明会 (第2回)
		9月 ・学校推薦型選抜 希望調査 ・年内入試希望者説明会 (第3回)
		10月 ・学校推薦型選抜受験 希望者の面接練習
		12～3月 ・年内入試合格者向けに、 各種資格・検定試験の 取得を促す
年内入試 指導のポイント	▶志望理由書作成指導や面接指導を繰り返す中で、将来のビジョンや大学進学についての考えを明確にする ▶大学に進学した卒業生を招き、大学での学びを紹介。学部・学科のミスマッチを防止する ▶指定校推薦希望者には、志望理由の明確化などハードルを設け、安易な推薦はしない	
大学への期待	年内入試	▶アドミッション・ポリシーが反映された、受験生の適性をきちんと評価する入試 ▶ある程度の歯ごたえ、ボリュームのある課題を求める入試
	高大接続	▶次年度から学校設定科目「キャリア」を設置する予定。探究学習や「キャリア」の授業で、大学の教員や大学院生に評価やアドバイスしてほしい。定期的な連携の機会を持ちたい
	情報提供	▶高校生向けの「研究室ガイド」「ゼミガイド」の提供。生徒が興味を持った分野、テーマについて研究している教員がいるかどうか調べることができる資料が欲しい